

■ 幼児教育センターみなみ園

1 実態

5歳児20名、4歳児8名、3歳児11名、2歳児6名、1歳児4名の全園児49名（11月現在）の園であるが、幼稚園部は5歳児のみであるため、報告の対象は5歳児20名とする。

当園では毎年、年に1回（6月）に歯科検診をおこなっている。今年の検診の結果はハイリスクの対象となるのは1名、多くはないがむし歯がある子が1名、歯垢、歯肉、歯石に異常がみられる子は0と少なく、ハイリスクへのアプローチ指導は個別への働きかけとし、現在の良い状態を継続、維持させていくことが大切だと考えた。

また、むし歯は少ないが歯列の状態に何らかの異常がある子が3名と割合的には多く、乳歯から永久歯へ生えかわり時期であるため永久歯が生えるスペースがなく歯列が崩れてしまうことが多いように思う。

このことから歯みがきだけでなく、食事、睡眠など生活リズムに大きな影響があると考え総合的な取り組みが必要である。地域の学校地域保健連絡会でも、R5～R8年までの期間を継続して『生活リズムを整えながら、お口の健康を守ろう！』をめざす姿として取り組んでいる為、合わせて実践していく。

2 ねらい

お口の健康の大切さを知り、きれいに歯をみがく習慣や生活リズムの見直し、歯を強くする食事について関心をもてるようにする。

3 実践

①集団指導

ア 実施時期 通年（給食・おやつ時）

イ 内容

・給食での指導

①よく噛んで食べる

かみかみ和え（切り干し大根、スルメ入り）

ごぼうサラダ・れんこんサラダ・具だくさん汁 など

②口腔機能を高める

ヨーグルトをストローで吸って食べる

手作りプリッツを手で持たず食べる

せんべいに舌で穴を開けてみる など

ウ 成果

・噛み応えのある食品、献立を多くすることで、よく噛んで食べる習慣が少しずつ身についてきている。

・噛む、吸う、口を動かすなどよく動かすことで唾液の分泌が増え、歯にも好影響となっている。



②個別指導

ア 実施時期 通年（奇数月）

対象者数 5歳児

イ 内容

- ・生活目標に合わせて取り組む約束を決め、約束表を作成。家庭で1週間取り組み、提出してもらう。

ウ 成果

- ・約束表の内容を「自分でみがこう」「仕上げみがきをしてもらおう」などの項目にする事で、家庭でもしっかりみがく意識がもてるようになった。
- ・早寝、早起きに取り組むことで朝の時間に少しでも余裕をもたせ、歯みがきの時間の確保に心掛けることにつながっている。

【約束表】

③個別指導

ア 実施時期 通年給食後

対象者数 5歳児、4歳児、3歳児(11月～実施)

イ 内容

毎日給食後に各クラスでの歯みがきタイムの実施

ウ 成果

- ・毎日行うことで抵抗なく歯がみがけるようになり、「食べたらみがく」習慣が身についてきた。
- ・正しいみがき方がわかるようになってきた。
- ・6歳臼歯や永久歯についての関心をもち、歯を大切にする意識づけへと繋がっている。



④集団指導

ア 実施時期 11月

対象者 全園児



イ 内容

生活習慣アンケートの実施

『朝食は食べますか?』『朝食は誰かと一緒に食べていますか?』

『いつ歯をみがきますか?』

その他、睡眠時間、メディア使用時間のアンケート項目あり

ウ 成果

- ・家庭での歯みがきの実施状況や生活習慣の傾向がわかり、今後どんなことに取り組むと良いかの参考になった。

4 成果と課題

◎成果

- ・毎日の給食やおやつを友達と一緒に美味しく食べることで、噛むことへの意識が無理なく身につけているように思う。
- ・家庭と連携して取り組んでいくことで、お口の健康や歯みがきに関心を持ち、歯の大切さへの意識が高まり、ハイリスクの園児の減少へとつながっている。
- ・家庭での生活習慣を知ることで、今後は園からどんなことをどのように発信し、取り組んでいくと良いかを検討することができた。

●課題

- ・前年度までおこなっていた園歯科医師、歯科衛生士による指導ができなかったことで、専門的な知識を得ることができなかったことが残念に思う。来年度はどのように取り組むべきか大きな課題となった。
- ・園での取り組みや園児の姿を家庭に知らせたり、家庭での様子を聞いたりしながら、家庭との連携をより多く取りながら行っていくことで、更に意識を高めていきたい。
- ・生活リズムが崩れがちな家庭には、どのように対応していくと良いかを考えていく必要がある。

■ 美濃加茂市立蜂屋小学校

1 実態

4月に実施した歯科検診の結果より本校では、全校児童373名のうち、受診が必要とされた児童は96名(25.7%)、ハイリスクアプローチの対象となった児童は27名(7.2%)であった。ハイリスクに該当した児童の実態としては、未処置歯を3本以上有する児童が21名、歯垢の状態が「2」と評価された児童が8名、歯肉の状態が「2」以上と評価された児童が2名であった。これらの結果から、本校のハイリスク対象児童には、特に未処置歯を3本以上有する児童が多いという傾向が見られた。

本校では、給食の時間終了後に全員が歯みがきを行っているが、歯みがきに対する意識には個人差があると感じられた。また給食の時間の様子や残量調査の結果から小魚や根菜類など、よくかまなければ食べにくい料理を残す児童の姿が見受けられた。このことから、よくかんで食べることへの意識が十分でなかったり、硬い食べ物に対して抵抗感をもっていたりする児童がいることが課題であると考えた。むし歯を予防するためには、歯みがきに対する意識を高め、適切に実践することが重要である。また食育の観点からは、よくかんで食べることで唾液の分泌を促し、むし歯の予防に効果があるとされている。以上のことから、むし歯を予防するための指導として「適切な歯みがき」と「よくかんで食べる意識の向上」の2点に重点を置き実践を行うこととした。

2 ねらい

- ・給食等を活用した集団指導により、よくかんで食べる意識の向上を目指す。
- ・個別指導により、歯みがきやむし歯になりにくい食事のポイントを理解し、実践することができる。

3 実践

①-1 集団指導 学校給食を活用し、よくかんで食べる意識を高める取組み

ア 実施時期 通年

イ 内容

給食献立の年間計画において、年間を通じて継続的によくかんで食べる意識を高めることを目的に、毎月8のつく日を「歯の日」と位置づけた。また、6月2日(月)から6月6日(金)までは歯と口の健康週間に合わせて「かみかみ献立週間」とし、11月8日は「いい歯の日」とした。これらの日には、意図的によくかんで食べることを意識した料理を献立に取り入れ、給食の時間には放送などを通じてよくかんで食べる大切さや効果についての啓発を行った。



麦ごはん、
鶏肉の塩こうじ焼き、
大豆の磯煮、かきたま汁、
味付け小魚、牛乳

ウ 成果

意図的に献立を位置づけ放送等で啓発をすることで、よくかんで食べる意識を高めることができた。

- ・味付け小魚は、かめばかむほど味が出て、おいしかったです。しかもよくかんで食べると消化を助けるなんて最高ですね。(児童より)
- ・なかなか30回かむのは難しかったようですが、意識してかんで食べていま

①-2 集団指導 食育マイスター事業を活用し、よくかんで食べる意識を高める取組み

ア 実施時期 7月14日(月)、7月15日(水)

イ 内容

岐阜県が小学校6年生を対象に実施している「食育マイスター事業」を活用し、児童が自ら調理にチャレンジし、家庭でもよくかんで食べる習慣を身につけることを目的に授業を行った。栄養教諭が作成した「食育マイスターおすすめレシピ集」を児童に配布した。レシピ集の中には、児童が簡単に作れるおすすめ料理や給食の人気料理の他に、チョコタフィやかみかみグミなど、児童の関心を引くかみかみ料理も紹介した。



チーズせんべい レベル1 ★☆☆	
材料 1枚分	
とろける スライスチーズ	1枚
香のり	少々
① クッキングシートにスライスチーズを置き、香のりをかける。 ② レンジで加熱する。(600W 1分半)	

かみかみグミ レベル2 ★☆☆	
材料 作りやすい分量	
ゼラチン	15g
りんごジュース	100ml
レモン果汁	小さじ2
A ほんみつ	大きじ1
砂糖	大きじ1
*タッパーの大きさは10cm×10cm程度がおすすめです。	
① カップにりんごジュースとゼラチンを入れ、ゼラチンを10分ふやかす。 ② ラップをしないでレンジで加熱する。(600W 40秒) ③ Aを入れて混ぜる。タッパーに流し入れて、冷蔵庫で冷やし固める。 ④ 固まったグミを食べやすい大きさに切る。	

チョコタフィ レベル2 ★☆☆	
材料 2人分	
炒り大豆	30g
A 純ココア	小さじ1
砂糖	大きじ1
水	小さじ2
① 鍋にAを入れて煮溶かし、あめ状にする。 ② ①に炒り大豆を入れ、中火でバラバラになるまで混ぜる。	



【チョコタフィを作った児童の感想】
難しかったけど、おいしくできてよかった。
次はもう少しココアを増やそうと思う。

ウ 成果

・夏休みにレシピ集の中から料理作りに挑戦した児童が多くおり、チョコタフィやかみかみグミなどのよくかむ料理に挑戦した児童もいた。

①-3 集団指導 朝活動の時間を活用し、よくかんで食べる意識を高める取組み

ア 実施時期 10月29日(水)

イ 内容

本校では、月に一度の朝の活動として、栄養教諭が作成した食育動画を全校で視聴する取組みを行っている。その活動の中で、「丈夫な歯をつくろう」をテーマに、よくかんで食べることの大切さについて指導を行った。動画はクイズ形式を取り入れ、児童が楽しみながら学べる内容となっており、全校でよくかんで食べる重要性について理解を深めた。また、その日の給食には意図的に小魚を取り入れ、学んだことを実践につなげられるようにした。



ウ 成果

- ・動画を見た後の感想交流では、積極的に手を挙げて発言をする姿がみられた。

【児童の感想より】

- ・今までは何となく給食を食べていたけど、30回よくかんで味わって食べたいと思った。
- ・よくかんで食べると味が変わることが分かったので、今日はごはんなどをよくかんで食べようと思った。

- ・当日の給食の給食ではいつも以上によくかんで食べる姿がみられた。

【給食の時間の児童の発言より】

- ・朝の話を思い出して、今日はいつもよりごはんをたくさんかんでみたら、甘いのが分かった。

②個別指導

ア 実施時期 10月22日(水)、10月28日(火)、10月31日(金)

対象者数 27名

イ 内容

養護教諭と連携してハイリスクに該当した児童を対象に個別指導を行った。栄養教諭からはむし歯になりにくいおやつのお食べ方のポイントについて、養護教諭からは4月に行った歯科検診の結果をもとに、個人別の歯磨きのポイントについて指導をした。指導後は、一週間給食後の歯みがきチェックを実施させ、意識の継続を図った。



ウ 成果

- ・個人の歯科の課題を意識させるきっかけを作ることができた。
- ・養護教諭からの指導をもとに、給食後に意欲的に歯を磨く姿がみられた。

	10/23 (木)	10/24 (金)	10/27 (月)	10/28 (火)	10/29 (水)
はみがき					
気をつけるポイント					

気をつけて
みがくポイント

上のおくげ

③学校歯科医における保健に関する指導

- ア 実施時期：11月13日(木) 対象者数：6年生67名 保護者の参加：無
イ 内容

歯肉炎予防を目的とした、学校歯科医による授業を実施した。歯肉炎はていねいに歯みがきをすることにより改善することを伝、そのためにフロスを使い方や歯みがきのポイントについて指導を受けた。

ウ 成果

- ・前向きな発言が多く聞こえ、歯磨きに対する意識の高まりがみられた。

【児童の感想より】

- ・歯肉炎は、しっかり歯をみがけば治ると知れてよかった。
- ・これから歯みがきががんばりたいと思った。

4 成果と課題

- 栄養教諭の専門性を活かしてよくかんで食べる大切さについて指導することで、給食をよくかんで食べようという意欲が高まった。
- 養護教諭と連携して個別的な指導を行うことで、児童が自身の歯科の課題を見つめなおすきっかけを作ることができた。
- ▲よくかんで食べることや、歯みがきの大切さなどについて理解はしているものの、実践を継続させるためには、計画的、継続的に指導をしていく必要がある。
- ▲兼務校を多くもつ栄養教諭では、指導に対する見届けや継続的な指導を行うことは難しいため、校内全体で指導が行えるように、教職員との連携を強化していく必要がある。

■ 瑞浪市立瑞浪北中学校

1 実態

本校は全校生徒332名の中規模校である。4月の歯科検診の結果、所見が全くない生徒は何人もいたものの、全校で「歯垢が1または2」の割合が19.8%、「歯肉の状態が1または2」の割合が31.0%と2～3割の生徒の口腔内が衛生的に十分保たれていない状況だということが分かった。

さらに給食後の歯みがきについては、希望する生徒が実施している現状だが、学年によってみがいている人数に差があったり、みがいている様子も友だちと話をしたりと歯みがきに意欲的に取り組めていない生徒も多い状況である。

2 ねらい

- ・自ら歯・口腔に関心を持ち、積極的にきれいにしようという行動がとれる。
- ・後期歯科検診でG（歯肉炎）の生徒が軽減する。

3 実践

①集団指導

ア 実施時期 歯科検診の前と後

イ 内容

歯科検診の1週間前後に歯に関する保健だよりの配付

- ・検診前：歯みがきのメリットや歯みがきのコツを掲載した。
検診後：クラスごとに前期後期の歯垢、歯肉の結果と考察を掲載した。

検診前の全校放送と職員宛通信

- ・検診2週間前と1週間前と前日に昼の放送で歯科検診についてアナウンスを行った。
- ・職員通信では、検診前には日常の指導の中で声をかけてほしい内容についてまとめたものを提案した。検診後は、改善がみられた生徒や特に汚れがひどかった生徒について一覧にしてまとめたものを提示した。

ウ 成果

- ・給食後の歯みがき時に「先生、どう？」と歯ぐきを見せる生徒や丁寧にみがこうとする生徒の様子から、普段より検診に向かってみがききろうという意識が高まった生徒もいた。

(人)	歯垢が全くついていない人		歯肉の状態がよい人	
	R7年6月	R7年10月	R7年6月	R7年10月
3年A組	23	22	22	22
3年B組	8	21	8	16
3年C組	12	22	11	17
3年D組	19	26	21	21
2年A組	14	25	12	25

②個別指導

- ア 実施時期 10月～11月（後期歯科検診の3～4週間前）の昼休み
- 対象者数 1～3年生で前期歯科検診の結果、歯肉が2だった生徒（24人）

イ 内容

【事前】

- ・担任から生徒に対象者になったことを報告。その際には、「対象者になったことは、罰や恥ずかしいことではなく、歯肉炎は自分の力で改善できる数少ない疾患であるため、それを理解し、自分自身の体を大事にできる人になってほしいという取組であること」を押さえるように依頼した。同時に保護者宛にも、同様の内容を含めた案内文書を配付した。
- ・数日前には昼の放送で、歯科検診が近いこととともに、個別指導を行うことを放送し、価値付けを行った。

【当日】

1日1～2人 1回10分程度で個人票を使用し実施した。

取組内容

- | | |
|---|------------------------------|
| A | 前期歯科検診の結果の確認 |
| B | 歯肉炎の理解と口腔内の観察 |
| C | 効果的な歯みがきの仕方と歯科検診までの歯みがきの目標設定 |

A 前期歯科検診の結果の確認

- ・個人票の歯科検診結果の欄から自分の口腔状態を確認した。歯垢、歯肉の状態だけでなく、未処置歯やCOの位置等も分かるようにした。

B 歯肉炎の理解と口腔内の観察

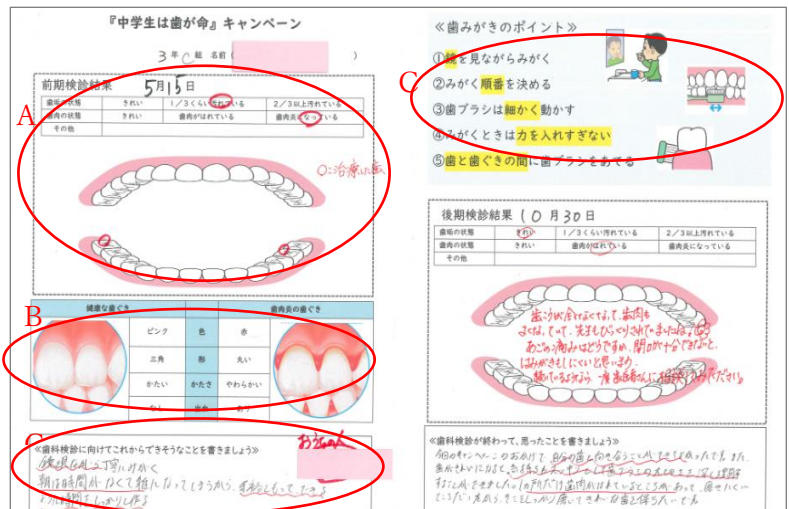
- ・歯肉炎の仕組みや放置した場合等についてスライドを使用し学習した。その後、健康な歯肉と歯肉炎の歯肉の見分け方について復習を行った。
- ・健康な歯肉と歯肉炎の歯肉の見分け方の表と鏡で、自分の歯肉炎の個所と症状を確認した。

C 効果的な歯みがきの仕方と歯科検診までの歯みがきの目標設定

- ・効果的な歯みがきの仕方について、歯の模型や歯ブラシを利用しながら学習した。
- ・自分の日頃の歯みがきの仕方を振り返りながら、次回の歯科検診に向けて、今日からできそうなことを考えて個人票に記入した。

【事後】

- ・歯科検診当日は校医の先生に個別指導対象者を伝え、取組の成果について言葉をいただいた。
- ・後期検診結果が載った個人票を配付し、今回の取組についての感想を記入した。



ウ 成果 生徒の感想より

- ・自分の歯に向き合うことができよかったです。また、歯がきれいになると気持ちもすっきりとして歯ブラシの大切さを深く理解することができました。
- ・けっこう歯ぐきの部分を重点的にやったので、ちょっと状態がよくなってきました。これで終わりにせず、日ごろからちゃんとみがいていきたいです。
- ・前期検診結果を受けて細かいところまできれいにみがいてきた結果が出せてうれしかった。このきれいな歯を維持していきたい。
- ・毎日コツコツみがけばきれいになる。5分でもいいからみがくことが大事。歯肉炎回復へ歯みがきします。

③-1 学校歯科医における保健に関する指導

ア 実施時期 10月30日(木) 5校時

イ 内容

- ・学校歯科医による講和「喫煙と歯周病」 対象：1年生
- ・後期歯科検診の2週間前に実施。
- ・クイズをしたり、生徒に身近なアニメのキャラクターについて考えたりして、楽しみながら学習した。



ウ 成果 生徒の感想より

- ・タバコは歯周病の原因になることが分かりました。歯の病気になるだけでなく他の病気の原因にもなるので、絶対に吸ってはいけないと思います。そして歯みがきもがんばります。
- ・「健康に生きる」ためには、歯をきれいに強くしないといけないと思います。歯こうなしのきれいな状態にして、健康な生活を送るようにしたいです。
- ・タバコが歯周病の原因となることを知りました。タバコは依存性があるので1度でも気を許さずに吸わないようにしたいです。また、歯みがきをしないと歯周病になってしまうので毎日みがいて健康な歯を保ちたいです。

③-2 学校歯科医における保健に関する指導

ア 実施時期 11月13日(木) 歯科検診時 対象：全校

イ 内容

- ・検診をしながら、COのある生徒や歯肉炎がある生徒に声をかけていただいた。
- ・手鏡等を使用し、部位やみがき方等その場で歯科指導をしていただいた。
- ・前回よりも歯肉炎が改善していた生徒には、直接ほめていただいた。
- ・検診直後に養護教諭から再度確認をして価値付けした。



ウ 成果

- ・鏡等を使用し具体的に指導していただいたことで、自分の課題が明確になった。
- ・これまでの頑張りをその場で評価していただいたことで、喜びを実感し今後の意欲につながった。

4 成果と課題

- ・後期の歯科検診の結果、「歯垢が1または2」の割合が18.3%、「歯肉の状態が1または2」の割合が23.9%と、歯垢の変化は1.5%減少と若干だったものの、歯肉は7.1%減少した。
- ・個別指導を行った生徒の歯肉の状態の検診結果は、「2」のまま変化のなかった生徒が4人、「2」から「1」になった生徒が11人、「2」から「1」になった生徒が2人と、77%の生徒が歯肉の状態が改善できた。
- ・歯科検診というゴールを明確にして、その期間に全校や学年といった集団に向けて、歯科講話を設定したり放送や保健だよりの発行、担任や養護教諭の声掛けをしたりしたこと、さらにその期間に個別指導を実施したことで、歯みがきに対する生徒の関心を効果的に高められることができた。
- ・ハイリスク生徒を抽出し個別指導を行ったことで、個別の課題と具体的な手立てを明確にし、意図的な声掛けにより生徒の意欲を高められた。
- ・前期検診できれいにみがけていたのに、後期検診では歯肉の状態が「2」に悪化したという生徒が何人かいた。集団指導と個別指導のバランスを考えながら継続的な指導を行っていききたい。
- ・個別指導の時間の確保が難しい。保健室運営を疎かにせず歯科指導を行うためには、さらなる手立ての工夫が必要だと感じる。
- ・ハイリスク生徒の中には、歯みがきだけでなく、生活習慣全般に課題がある生徒が少なくない。担任や保護者と連携をとりながら、歯科指導だけでなく優先される支援や指導を行っていききたい。

■ 岐阜県立中津商業高等学校

1 実態

今年度の歯科検診において、全校生徒 352 人のうち、要受診者は 49 人 (13.9%)、ハイリスクアプローチ対象の生徒は 5 人 (1.4%) であった。5 人の生徒の内訳は、「未処置歯が 3 本以上」の生徒が 4 人、「歯垢の状態 2」の生徒が 1 人。全体としては、比較的口腔状態は良い印象であり、学校歯科医からも口腔状態がきれいな生徒が多いと褒めていただいた。しかし、要受診者については、毎年受診率が低く、将来の歯及び口腔状況が心配な生徒もいる。

2 ねらい

歯、口腔の健康について理解し、正しい歯みがきの仕方を覚える。自身の口腔状況を把握して、早期に治療をすることの大切さや、今後むし歯や歯周病を引き起こさない生活習慣や定期検診を身に付ける機会にする。

3 実践

①集団指導

- ア 実施時期 令和 7 年 6 月～7 月、令和 7 年 9 月
- イ 内容 保健だより 6 月号に歯科に関する内容を掲載
要受診者に対して、勧告書配付
未受診者に対して、夏休み前に受診を促すお知らせを配付
夏休み後に受診報告がなかった生徒に対して、再勧告書を配付
- ウ 成果 繰り返し、お知らせや勧告書を配布したことで、受診報告が例年より増加した。



②個別指導

- ア 実施時期 令和 7 年 10 月 (6 日間)
- イ 内容 <未受診者に対して小集団の個別指導>
- ・むし歯の原因や発生、むし歯を防ぐための歯みがきのコツなどを、パワーポイントを使って説明した。
 - ・歯みがき指導 (染めだし、ブラッシング指導)
 - ・アンケート実施



- ウ 成果 生徒の感想から

「しっかり磨いたはずなのに磨けていない箇所があったので、今後の歯みがきを大切にしたいです。」「磨き残しがないように、しっかり磨いて自分の歯を大切にしたいです。」「定期受診と一日三回以上の歯磨きを忘れずに行っていきたいです。」など声を聞くことができ、生徒が自身の口腔衛生について考える機会になった。

③学校歯科医における保健に関する指導

ア 実施時期 令和7年9月2日（火）午後

イ 内容

学校歯科医の先生に歯科保健指導を実施する旨を伝え、歯科検診時に生徒の口腔状況で気になった点や指導をするにあたり、必要な情報、指導の注意点等、「なる」ほど！THE 学校歯科 2020版」の冊子を参照しながら丁寧に説明をいただいた。

ウ 成果

養護教諭が保健指導をする際に、学校歯科医の先生からご指導いただいた内容を基に資料を作成し、生徒へ伝えることができた。

<学校歯科医より>

① 歯科検診時に気になったこと

- ・未処置のう蝕歯がある生徒、歯垢の沈着により、歯肉炎の生徒は少数であった。
- ・歯列不正のため、矯正治療を受ける生徒が高学年により多くみられた。

② 歯みがき指導での注意点、生徒へ伝えたいこと

- ・プラークが残りやすい部位を、模型を使ってわかりやすく説明すると良い。
- ・歯ブラシの毛先を歯の幅くらいに細かく動かす。
- ・補助的に歯間ブラシ、デンタルフロスを使用する。
- ・フッ素入り歯磨剤の使用により、むし歯になりにくくし、歯質を強化。
(歯科医院の模型と歯ブラシ、歯間ブラシ等を貸し出ししてくださる。)
- ・歯肉炎の予防：プラークコントロールにより原因菌を減らす。
- ・「磨いている」と「磨けている」は違う。正しい歯みがき方法を身に付けて欲しい。
- ・規則正しい日常生活（食事、睡眠、心の安定）を送ることで免疫力を高める。

4 成果と課題

- 要受診者かつ受診報告のなかった生徒に対して繰り返し受診のお願いや保健指導を実施したことは、生徒が自身の口腔衛生について考えるきっかけになり、受診につながった。また、受診をしていたが報告書を提出していなかった生徒の把握ができ、個別で歯科保健について話す機会になった。
- 学校歯科医から歯科保健に関するご指導をいただいたことで、効果的な保健指導ができた。
- 例年受診率（報告）が2割程度だったが、今年度の受診率（報告）は75.5%と増加した。
- 未受診者（特にハイリスクの生徒）から「歯科医院へ行かなければいけないことはわかっているが、時間がなくて行けない。」と回答があり、早い段階で面談や保健指導を実施し、歯科受診につながる支援が必要と感じた。

■ 岐阜本巣特別支援学校

1 実態

当校は、知的障がい・肢体不自由・病弱の児童生徒に対応する特別支援学校で、226名の児童生徒が在籍している。4～5月に実施した歯科検診の結果、「歯垢の状態2」「歯肉の状態2」の児童生徒は0名であったが、未処置歯が1本以上ある児童生徒は9名だった。

毎日の取り組みとして、児童生徒の健康保持に加え、自立支援・生活習慣の定着を図るため、小学部・中学部では給食後に歯みがきの時間を設け、食後の歯みがきを実施している。教員がそばについて、必要な言葉掛けや仕上げみがきを行うなどの支援を行っている。

一部の児童生徒の口腔内の状態からは、歯垢の付着や歯肉の腫れなど、日常的な歯みがきが十分に行われていないと感じている。その背景には、家庭での歯みがき習慣の未定着や、歯科受診の機会の不足、障がい特性によるセルフケアの困難さがあると考えられる。担任との情報共有を通じて、定期的に歯科受診をしている児童生徒がいる一方で、毎日の歯みがきが習慣化されておらず、口腔内に問題が見られる児童生徒もいる。

2 ねらい

- ・歯みがきの目的を理解し、正しい歯みがき方法を身に付けることで、口腔内の清潔を意識できるようにする。
- ・学校での歯みがきの時間を活用し、家庭でも継続できるような習慣づくりを支援する。

3 実践

①集団指導

ア 実施時期 ①7月 ②6月・11月

- イ 内容
- ①教室へ出向き、歯科指導「歯みがきをしよう」を実施。パワーポイントを用いて、歯みがきをする目的、正しい歯みがきの方法、歯にやさしいおやつ等について学習した後、鏡を見ながら歯みがきを行い、一人ひとりに合わせた言葉掛けをしながらみがき方の復習を行った。
 - ②ほけんだよりに「歯の健康」に関する内容を掲載し、担任の先生から児童生徒へ説明するよう依頼した。

- ウ 成果
- ・パワーポイントを用いた視覚的な説明により、生徒が「なぜ歯みがきをするのか」を理解しやすくなり、口腔内の清潔への意識を高めることができた。また、クイズを取り入れ参加型にすることで、楽しく歯みがきについて学ぶことができた。
 - ・個別に言葉掛けすることで、生徒が自分に合ったみがき方を身に付ける機会となった。
 - ・ほけんだよりを活用した情報発信により、家庭へも啓発をすることができ、保護者の関心を高めることにつながった。

②個別指導

- ア 実施時期 6月、7月、10月に数日ずつ
- イ 内容 給食後に保健室で養護教諭と歯みがきを実施
- ウ 成果
- ・個別の環境下で歯みがきを行うことで、児童が落ち着いて取り組むことができ、歯みがきへの抵抗感が少なくなった。
 - ・毎日来室しての歯みがきは難しかったが、数日に1回でも続けることで、歯肉の腫れの状態が少しずつ改善している様子が見られた。
 - ・歯みがきの時間を通して、児童と会話をする機会ができ信頼関係の築きにつながった。児童が自分の思いを伝えられるようになるなど心の安定にも関係していると感じた。また、付添いの教師から学校や家庭の最近の様子を聞くことができ、児童の生活背景に関する情報共有も進んだ。

4 成果と課題

歯の大切さや歯みがきの目的を理解することで、歯みがきに向かう姿勢に変化があり、自分なりにできることをやってみようとする姿が見られた。「なぜ歯みがきをするのか」を楽しく学ぶことで理解が深まり、一人ひとりの口腔の状態やみがき方を確認しながら、適切なアドバイスができた点も成果として挙げられる。また、今後も継続的に口腔衛生の正しい情報を保護者に発信し、家庭でも歯みがきの大切さや定期的な歯科受診の必要性について意識していただけるよう働きかけていきたい。

今後の課題として、個別支援の継続とともに、学校歯科医や歯科衛生士などの専門職と連携し、より専門的な口腔ケア指導を受けられる体制づくりを考えていきたい。また、他校で実施されているフッ化物洗口液の活用など、効果的な取り組みを参考にしながら、児童生徒の健康保持に向けた支援の充実を図っていきたい。

